



## あなたにとってのホームとは…

音楽座ミュージカル「ホーム～はじめてテレビがきた日～」を鑑賞しました。少し難しいストーリーでしたが、生徒たちの感想を見ると、とても多くのことを感じ取ってくれていました。感じ方はそれぞれ違うけれど、家族って何かを考えるいい機会になったと思います。一人ひとりの夢は違っていても、その実現に向かって進む方向は同じです。「ホーム」って、そんな人と人とのつながりの場であることがわかりました。

また、第1幕からカーテンコールまでの舞台も感動しましたが、前日の準備から後片付けまでの様子もひとつの舞台を見ているようでした。大型トラック2台分に積まれた荷物を素早く降ろし、みんなで声をかけ合いながら手際よく組み立てていく姿は見事でした。舞台上で役を演じていた人から、脇役の人まですべての人が、汗を流しながら休む間もなく動き回っていました。そこにも「ホーム」がありました。

下の文は、パンフレットに載せられていた役者さんたちのコメントの一部です。

- ◆ 自分自身がいつもキラキラしていないと…。だから、常にチャレンジャーでいたい。今は、一日に何かひとつでもいいから、自分がこれを手にしたと思えることをしたいと思っている。  
愛しているから厳しくなる。私にとっての「ホーム」とはそういう場所。(麻生めぐみ・山本広子役 高野菜々)
- ◆ 悩んでいたり問題を抱えていたりしている者がいれば、全員でかかわって必ず何とかしようとする。このかわりこそ、家族以外のなにものでもない。(山本哲朗役 佐藤伸行)
- ◆ 人はいろいろなものを抱えて生きている。「ホーム」って、言葉にしちゃうと薄っぺらくなるような、心の柔らかくしていきたい場所についてくる作品です。(哲朗の妹役 井田安寿)
- ◆ 「小さなことが何かにつながっている」。例えば、戦争をなくすことは無理でも、まずは「なくすんだ」と自分が強く思って少しずつ変わることが、大きな変化につながる。人は変わる環境があることを、もっとたくさんの人に知ってもらいたい。(坂本いずみ役 秋本みな子)
- ◆ 人は一人では生きていけない。みんな同じ人間だから喜びも痛みもわかちあえる。(めぐみの母役 清田和美)

詫間中学校も、そこで過ごす人たちの気持ちがひとつになっていく「ホーム」でありたいと思います。

### 連載

### A教頭の「走ることのススメ」最終回 ～走れる幸せ～

平成23年2月6日、冬の寒さも和らぎ、好天に恵まれた一日となった。今年の参加者は9000人を超えていたため、スタート直後は混雑して思うように走れず、少しストレスのたまる前半となった。それでも、坂出の折り返し地点を1時間ちょうどで折り返し、記録更新にかすかな期待があったが、後半失速してしまった。20km関門責任者の高橋先生に声をかけられて、ちょっとだけラストスパートをかけたが、結局2時間5分という平凡な記録に終わってしまった。最後5kmの苦しいとき、自分に負けてしまった結果である。でも、改めて、走れる幸せを感じ取ることができた。ゴール手前で高橋尚子選手とハイタッチする幸運にも恵まれた(\*^\_^\*)。

「幸せ」とは何か、人によって様々だろう。お金や物に恵まれた生活を幸せだと思っている人、社会的に高い地位にいることが幸せだと思っている人、愛する人と温かい生活を送るのが幸せだと思っている人……。また、それとは反対に、自分を他の人と比較して、嫉妬したり、欲張ったり、見栄をはったり、無理な背伸びをしたりして悩んで、自分は不幸であると思っている人もいるだろう。しかし、本当の幸せとは、特別なものではなく、何気ない平凡な毎日を過ごすことができた、そんなささやかなものかもしれない。そして、それが自分の心の中にあるということに気づいたとき、人は幸せになれるであろう。

私はこれからも、走れる幸せをかみしめながら走り続けていきたい。「人生」という名のレースはまだまだ続いている。そのレースに参加できること、つまり生きているという最大の幸せをかみしめながら、遥かなる夢のゴールをめざしたい。(完)

## 明日は「浦島デー」

給食試食会37名、授業参観(公開授業)206名、金銭教育発表会71名と、多くの方に参加いただけます。受付は、すべて1階の生徒玄関で行います。また、金銭教育についてのアンケート用紙を配付しますので、ご協力ください(できれば筆記用具をご持参ください)。よろしく申し上げます。